

地下タンク等定期点検実施結果報告書

様		令和 年 月 日						
		点検実施事業者 認定番号 住 所 氏 名 電話番号						
地下タンク、地下埋設配管の漏れの点検を実施し、異常の有無を確認しましたので、次のとおり報告いたします。								
危険物施設	事業所名							
	所在地							
	施設区分	製造所 地下タンク貯蔵所 屋外タンク貯蔵所 その他の貯蔵所 給油取扱所 一般取扱所 その他の取扱所 少量危険物施設 危険物施設及び少量危険物施設以外						
点検実施者	氏 名	責任者:						
	講習修了証番号	地第 号	地第 号	地第 号				
	危険物取扱者免状	種第 類第 号	種第 類第 号	種第 類第 号				
点 検 実 施 年 月 日		令和 年 月 日 (天候)						
点検対象設備	地下タンク容量 (品目)		点 検 実 施 設 備					
	①	L()	タンク 注入管	吸引管	通気管	送油管	戻り管	検知層
	②	L()	タンク 注入管	吸引管	通気管	送油管	戻り管	検知層
	③	L()	タンク 注入管	吸引管	通気管	送油管	戻り管	検知層
	④	L()	タンク 注入管	吸引管	通気管	送油管	戻り管	検知層
	⑤	L()	タンク 注入管	吸引管	通気管	送油管	戻り管	検知層
点検方法	試 験 の 別 (試験圧力)	加圧試験 (kPa) 減圧試験 (kPa)		微加圧試験 (kPa) その他の方法 ()				
	測 定 時 間	分 (分)						
判 定 基 準	別紙のとおり		計 測 デ ー タ	別添えのとおり				
点 検 結 果	①タンク圧力変動値 kPa % G値 T値 異常 あり・ なし	②タンク圧力変動値 kPa % G値 T値 異常 あり・ なし	③タンク圧力変動値 kPa % G値 T値 異常 あり・ なし	④タンク圧力変動値 kPa % G値 T値 異常 あり・ なし	⑤タンク圧力変動値 kPa % G値 T値 異常 あり・ なし			
	タンク液相部 () 異常 あり・ なし	タンク液相部 () 異常 あり・ なし	タンク液相部 () 異常 あり・ なし	タンク液相部 () 異常 あり・ なし	タンク液相部 () 異常 あり・ なし			
	配管圧力変動値 kPa % P値 T値 異常 あり・ なし	配管圧力変動値 kPa % P値 T値 異常 あり・ なし	配管圧力変動値 kPa % P値 T値 異常 あり・ なし	配管圧力変動値 kPa % P値 T値 異常 あり・ なし	配管圧力変動値 kPa % P値 T値 異常 あり・ なし			
	SF・FFタンクの 検知層圧力変動値 % 異常 あり・ なし	SF・FFタンクの 検知層圧力変動値 % 異常 あり・ なし	SF・FFタンクの 検知層圧力変動値 % 異常 あり・ なし	SF・FFタンクの 検知層圧力変動値 % 異常 あり・ なし	SF・FFタンクの 検知層圧力変動値 % 異常 あり・ なし			
	その他の方法 (エアチェック) 異常 あり・ なし	その他の方法 (エアチェック) 異常 あり・ なし	その他の方法 (エアチェック) 異常 あり・ なし	その他の方法 (エアチェック) 異常 あり・ なし	その他の方法 (エアチェック) 異常 あり・ なし			
点検済証 番号	前 回							
貼付位置	今 回							
立会者等	危険物取扱者免状・ 種第 類第 号 ・ 無 氏 名				印			
報告書作成者				営業担当者				

判 定 基 準

加 圧 法	ガス加圧	タ ン ク 配 管	20kPa 又は試験圧力（地下水が存する場合にあっては、地下水圧を加えた値）に加圧後、15分間の静置時間において、その後 15 分間（容量 10kl を超える地下貯蔵タンクにあっては、当該容量を 10kl で割った値を 15 分間に乗じた時間）の圧力降下が試験圧力の 2%以下であること。
		SF タンクの検知層	20kPa に加圧後、15 分間の静置時間において、その後 15 分間の圧力降下が試験圧力の 10%以下であること。
		FF タンクの検知層	20kPa に加圧後、15 分間の静置時間において、その後 35 分間（容量 50kl を超える地下貯蔵タンクにあっては、当該容量を 50kl で割った値に 1 を減じた値を 15 分間に乗じた値に 35 分間を加えた時間）の圧力の降下が試験圧力の 10%以下であること。
液体加圧	タ ン ク 配 管	タ ン ク 配 管	20kPa に加圧後、15 分間の静置時間において、その後 15 分間（容量 10kl を超える地下貯蔵タンクにあっては、当該容量を 10kl で割った値を 15 分間に乗じた時間）の圧力降下が試験圧力の 2%以下であること。
		タ ン ク 配 管	20kPa に加圧後、15 分間の静置時間において、その後 15 分間（容量 10kl を超える地下貯蔵タンクにあっては、当該容量を 10kl で割った値を 15 分間に乗じた時間）の圧力降下が試験圧力の 2%以下であること。
微加圧法	タ ン ク 配 管	タ ン ク 配 管	2kPa に加圧後、15 分間の静置時間において、その後 15 分間（容量 10kl を超える地下貯蔵タンクにあっては、当該容量を 10kl で割った値を 15 分間に乗じた時間）の圧力降下が試験圧力の 2%以下であること。
微減圧法	タ ン ク 配 管	タ ン ク 配 管	2kPa 以上 10kPa 以下の範囲で減圧し、減圧後 15 分間の静置時間において、その後 15 分間（容量 10kl を超える地下貯蔵タンクにあっては、当該容量を 10kl で割った値を 15 分間に乗じた時間）の圧力上昇が試験圧力の 2%以下であること。（常温で蒸気圧の高い危険物の場合にあっては、当該蒸気圧に応じて補正を加えた値 下表参照）
減圧法	SF タンクの検知層	SF タンクの検知層	20kPa に減圧後、15 分間の静置時間において、その後 30 分間（容量 50kl を超える地下貯蔵タンクにあっては、当該容量を 50kl で割った値に 1 を加えた値を 15 分間に乗じた時間）の圧力の上昇が試験圧力の 10%以下であること。
		FF タンクの検知層	20kPa に減圧後、15 分間の静置時間において、その後 105 分間（容量 50kl を超える地下貯蔵タンクにあっては、当該容量を 50kl で割った値に 1 を減じた値を 75 分間に乗じた値に 105 分間を加えた時間）の圧力の上昇が試験圧力の 10%以下であること。

（微減圧試験における蒸気圧補正を加えた実施方法）

G 値・T 値・P 値の測定値が下の判定表に示す判定値以内であること。

- ① G 値・T 値・P 値の測定値は、測定した圧力を 5 分ごとにプロットして作成された試験経過図から求められる値である。
- ② 減圧値は、概ね 2kPa、4kPa、10kPa のいずれかであること。
- ③ 測定時間は、タンク容量に応じて 30 分以上と 60 分以上の 2 種類とする。

判 定 表

試験対象設備		20kl 未満のタンク			20kl 以上～100kl 未満			地下配管				
減圧値 (kPa)		2	4	10	2	4	10	2	4	10		
測定時間 (分)		30 以上			60 以上			30 以上				
液温 (°C)		0～30			0～30			0～30				
ガソリン	判定値	G	0.95 未満	1.10 未満	2.90 未満	0.95 未満	1.10 未満	2.90 未満	P	0.04 未満	0.08 未満	0.20 未満
		G	0.95～1.00	1.10～1.20	2.90～3.10	0.95～1.00	1.10～1.20	2.90～3.10	P	0.04～0.08	0.08～0.16	0.20～0.40
		T	0.04 以下	0.08 以下	0.20 以下	0.04 以下	0.08 以下	0.20 以下	T	0.02 以下	0.04 以下	0.10 以下
溶剤類	判定値	G	0.45 未満	0.55 未満	1.40 未満	0.45 未満	0.55 未満	1.40 未満	P	0.04 未満	0.08 未満	0.20 未満
		G	0.45～0.50	0.55～0.60	1.40～1.60	0.45～0.50	0.55～0.60	1.40～1.60	P	0.04～0.08	0.08～0.16	0.20～0.40
		T	0.04 以下	0.08 以下	0.20 以下	0.04 以下	0.08 以下	0.20 以下	T	0.02 以下	0.04 以下	0.10 以下

G 値……0 分後と 30 (60) 分後の圧力差

T 値……30 (60) 分後と 40 (70) 分後の圧力差

P 値……10 (30) 分後と 30 (60) 分後の圧力差

注 1；所定の減圧値に達した時点を出発点（0 分）とする。

注 2；（ ）内の時間は、20kl 以上のタンクの場合とする。